

桜島昭和火口の2008年2月の噴火活動

Eruptive activity at Sakurajima Showa-crater in February 2008

気象庁地震火山部火山課、福岡管区气象台、鹿児島地方気象台 北川 貞之 [1]

Kitagawa Sadayuki Volcanological Division, Fukuoka District Meteorological Observatory, Kagoshima Local Meteorological Observatory, Japan Meteorological Agency[1]

[1] -

[1] -

活発な活動の続く桜島では、2006年6月4日に58年振りに昭和火口の噴火活動が再開し、同月20日まで続いた。昭和火口での噴火活動は2007年5月16日から6月20日にも小規模ながら発生、その後静穏な状態であったが、2008年2月3日00時39分に約7ヶ月振りに噴火活動を再開した。

2008年2月の昭和火口の噴火活動は、爆発的な噴火であったこと、ごく小規模ながら火砕流を伴っていたことなど、これまでの活動とやや異なる様相も呈している。

また、噴火活動に先立ち2007年10月頃より、火山性地震の増加や火山性微動の継続時間の増加がみられ、その後2007年12月以降は、火山性地震の減少及び振幅の増大、火山性微動の静穏化がみられた。

本講演では、これら2007年秋以降の活動状況も含め、2008年2月の昭和火口での噴火活動に伴う火砕流等の諸現象について、震動観測、遠望観測や現地調査等の観測結果などをとりまとめて報告する。なお、遠望観測や現地調査には九州地方整備局及び鹿児島県による協力を得ている。